



“心豊かに  
笑顔あふれる”

# 響

所報〈ひびき〉

No.  
**113**

青森県  
総合社会教育センター

平成31年 2月22日

## あなたの経験が中・高校生の未来をかえる ～大学生とカタル！キャリアサポート形成事業～

自らの夢に向かって主体的に行動できる人財を育成するために、当センターでは大学生が高校生の将来をともに考えるワークショップ「キャリアサポ」を開催しています。今年度からは、実施対象に中学校を新たに加え、中・高校生の夢や将来に対する具体的な目標設定、部活動や日常生活・学校生活の悩み解決の糸口を見つけ出すためのワークショップを実施しています。

参加する大学生は、研修で学んだ「心を開く円滑な人間関係づくり」を実践し、「大学生同士が交流」しながら準備を進め、ワークショップで「中学生・高校生との語り合い」をします。これにより大学生もまたコミュニケーション・ファシリテーション能力を向上させることができます。

今年度は、県内20の高等学校と中学校1校の計21校で、ワークショップ「キャリアサポ」及び「Jr. キャリアサポ」を実施中です。

今回が初となるワークショップ「Jr. キャリアサポ」は、青森市立荒川中学校で8月31日（金）に実施しました。

参加した中学生からは、「将来いろいろな不安があったけど、カタルを聴いて考え方を変わることが出来ました。今までできなかったことやこれからやっていきたいことがさらに増えました。これから、今日学んだことを思い出しながら、高校受験や学校行事につなげていきたいと思います。」等の感想がありました。

見学された先生方からは、「大学生が縦でも横でもない斜めの関係から本音をカタルという機会を得た子どもたちの表情、聞く姿勢がよかった。中学生は、自分のニーズに合わせて質問し、話し合うことで答えを見つけていたと思います。」等の感想がありました。

今後もワークショップ「キャリアサポ」及び「Jr. キャリアサポ」では、中・高校生のキャリア形成をナナメの関係から支援していきます。



高校でのワークショップの様子



荒川中学校でのワークショップの様子

### 青森県総合社会教育センター

検索

〒030-0111 青森市荒川字藤戸119-7 TEL 017-739-1252 FAX 017-739-1279 <http://www.alis.pref.aomori.lg.jp/>

教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座

# 「社会に開かれた教育課程」

について学ぶ講座

キーワードは「共有」!



去る11月20日(火)～21日(水)の2日間にわたり、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員を対象に講座を開催しました。新しい学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」について理解を深め、その実現に向けて学校・家庭・地域が「チーム」として連携し、“未来の学校づくり・地域づくり”に取り組む重要性と目的を共有し、具現化するための実践的な研修を行うことを趣旨としています。

「地域学校協働活動」についての説明、教育課程編成に向けた講義、連携の実践発表、各校種ごとの事例発表、公共施設等による情報提供、企業による模擬授業体験、モデルプランづくりの演習といった、盛りだくさんの研修内容で実施しました。現任教での実践に生かそうと、情報のインプットだけに留めず、グループワークではアウトプットしながら活発な話し合いが行われました。



【講義】「社会に開かれた教育課程」の編成に向けて 教育問題アドバイザー 坂本 徹 氏

(1) 正しい理解 (2) 適切な方法 (3) 着実な実践 (4) まずは第一歩を

「社会の最小単位は家族」であるという“本質”を見つめ直すことで、学習指導要領の前文を読み解き、正しい理解・適切な方法・着実な実践が展開できることを御講義くださいました。

【実践発表】

「子ども活動支援事業を通じた連携のかたち」  
NPO 法人なんぶねっと 理事長 四戸 泰明 氏

【情報提供】

・県近代文学館 ・県立郷土館 ・縄文時遊館

【企業による模擬授業体験】

「ライフプランニング授業」  
ソニー生命保険株式会社 工藤 将太 氏

【事例発表】

- |             |    |         |
|-------------|----|---------|
| ・八戸市立白銀小学校  | 教諭 | 中村 雅人 氏 |
| ・むつ市立田名部中学校 | 教頭 | 中村 邦夫 氏 |
| ・県立白石高等学校   | 教諭 | 大和 達子 氏 |
| ・県立森田養護学校   | 教諭 | 岡村 尚文 氏 |



⇒ 詳しくは、当センターのホームページ「主催事業報告」を御覧ください。

## ホームページを御活用ください!

当センターでは、ホームページを介して皆様に学習情報等を提供しています。是非御覧ください。

(1) 青森県総合社会教育センター

ホームページ

センター主催研修講座情報、施設利用予約状況、所報のバックナンバー、事業報告等を掲載



(2) Facebook ページ

最新の事業紹介、センター2階で実施している「画伯のたまご」展示作品等を紹介



(3) ありすネット

県内各地の講習会や研修情報、視聴覚ライブラリーで借りられる教材情報など、県民の生涯学習を支援する情報を提供



(4) eラーニング

- ・「あおもり子育てネット」  
家庭教育に関するメール相談の受付、子育て動画を配信
- ・「あおもり学インターネット講座」  
あおもり県民カレッジ連携機関の講座や歴史、文化等講座の動画を配信
- ・「元気青森人 PowerUp コンテンツ」  
社会人として頑張ろうとしている若者向けの情報や先輩社会人からのアドバイスの動画を配信



詳しくは **青森県総合社会教育センター** で検索!



# 青少年社会参加活動・創作活動モデル団体募集中！

## モデル団体って何？

高校生や大学生等で構成される団体のうち、社会参加活動（ボランティア・社会貢献・地元PR等）や創作活動（アート・バンド・ダンス等）を行っている団体を当センターがモデル団体に指定し支援しています。

## どんな支援を受けられるの？

発表の場の提供（生涯学習フェアなど）、情報発信するための専用掲示スペースの設置、センター研修室等の使用料の減免、社会教育主事等による情報提供とアドバイス等の支援を受けられます。

## どれくらいの団体が登録しているの？

社会参加活動は6団体、創作活動は1団体が活動中です！募集については随時受付中です。

興味のある方はセンター内ポスターか、下記URLを御覧ください。

<http://alis.pref.aomori.lg.jp/kouza.html>（青森県総合社会教育センター研修講座ページ）

## モデル団体って実際にどんな活動をしているの？ ～活動の一例～

平成30年12月16日（日）に、モデル団体 Lesta（レスタ）がワールドカフェを開催しました。

Lestaは高校生・大学生で構成される、青森市内で異年齢交流をメインに活動している団体です。

当日は、他のモデル団体（「キャリアサポートクラブコンソーシアム」、「確原色」等）や一般の方も参加してワールドカフェ（リラックスした空間で、5人程度のメンバーが一つのテーマについて対話する形式。指定した時間が経過した後、グループを再構成し、新たなグループで議論を深める。）を行いました。

「短命県返上！私の健康法」や「青森の魅力を私ならこう発信する」、「密かに企んでいる私の野望」など、テーマは様々。普段接することのない方と話をしたり、自分の考えを紙に書いたり、楽しい時間を過ごしました。

参加者からは、「出会った人を大切にしたい。」「初対面の人とも楽しく会話ができて良かった。」という感想が寄せられました。



VOL. 5  
青森市

## 魅力ある講座の実践紹介！

## 「地域合同防災訓練」

今回は地域防災への取組について、青森市沖館市民センター館長の片岡光昭さんからお話を伺いました。特に東日本大震災以降、防災は重要な地域課題として注目されていますが、地域住民の意識高揚から防災技能の習得まで、決して容易な課題ではありません。沖館市民センターでは、どのような取組をされたのでしょうか。



## 地域状況から求められるもの

青森市沖館市民センターは、青森市市民センター条例により、市内11番目の市民センターとして、平成11年12月に開館しました。コミュニティ活動、健康増進、学習文化活動等の様々なニーズに対応する多目的施設として活用されています。センター近隣の23町会で、沖館市民センター「管理運営協議会」を組織し、各町会長全員に協議会の理事になっていただき、いろいろな御意見を頂戴しながら運営しております。

今回お伝えする「地域合同防災訓練」には、地域の地理的事情が大きく関わっています。この地域はむつ湾に面しており、また地域を川が横切っているため水害の危険性が高くなっています。実際、大雨の時には氾濫すれすれまで増水することがよくあります。また、すぐ近くには石油貯蔵タンクがあり、この地域の地盤なども踏まえ、万が一大地震に見舞われたことを考えると、地域防災に力を入れる必要がありました。一方で、町会の自主防災組織は、平成26年度頃までは4町会程度にしか作られておらず、地域住民の防災意識の高揚と自主防災組織を増やすことが喫緊の課題でした。

そこで平成27年度には大学教授をお招きし、ワークショップ形式で地域防災の課題を明らかにし、その解決策を考えました。そして翌28年度には、当センターが防災拠点となることを想定した「沖館地域合同防災訓練」を実施しました。

青森市危機管理課、消防署、日本赤十字社の協力を得ながら、地域住民の皆様に避難誘導、段ボールを使った避難スペースの作り方、非常食であるアルファ米の説明と炊き出し訓練を行いました。さらには、放水訓練、消火器訓練、AEDの操作等も行いました。

## 地域課題解決の方策としても

この訓練は参加者に大変好評で、「勉強になった。」「年に一度はこのような訓練をすると良いのではないか。」等の感想をいただきました。

事業成果としては、自主防災組織を立ち上げた町会が増えたことが挙げられます。実は自主防災組織の立ち上げは、決して容易なことではありません。組織として継続していくことはもちろん、その資材の保管場所等にも留意しなければいけません。そこを乗り越えて、組織数が増えたことは大変嬉しい限りです。



当日の様子から

(左：心肺蘇生法訓練、右：毛布を使った担架作り)

この地域に限らず、青森市の課題として、「防災」「健康」「介護」が挙げられ、各地の市民センター・公民館等で対応講座等を展開していることと思います。当センターでも、それらの内容に加え、趣味・教養等の分野を含めると40以上の事業を展開しています。また、講座後には定型様式でのアンケートを行い、常に成果と課題の把握に努めてきました。

当センターは、来年度20周年を迎えます。今後も地域の皆様の生涯学習の拠点として、運営して参ります。

【編集後記】「自主防災組織は、立ち上げもさることながら、その存続も大きな課題である。」とのお話が印象的でした。立ち上げ数が増えたことに満足するのではなく、常に地域住民の防災意識に刺激を与えていくことが公的機関の大きな役割であると学びました。(A)



《青森県総合社会教育センターシンボルマーク》

人づくりの拠点として、県民の生涯にわたる学習の輪が、和を持って限りなく広がっていくことを願いとしています。家庭、学校、地域社会が一体となる姿を表現するとともに、色を緑色とし、伸びゆく緑豊かな青森県を表しています。